

English follows Japanese

創世記 32:1-21 恐れとの闘い

今朝はまず創世記 32:9-12 を読むことから始めましょう。9. ヤコブは言った。「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。私に『あなたの地、あなたの生まれた地に帰れ。わたしはあなたを幸せにする』と言われた主よ。10. 私は、あなたがこのしもべに与えてくださった、すべての恵みとまことを受けるに値しない者です。私は一本の杖しか持たないで、このヨルダン川を渡りましたが、今は、二つの宿営を持つまでになりました。11. どうか、私の兄エサウの手から私を救い出してください。兄が来て、私を、また子どもたちとともにその母親たちまでも打ちはしないかと、私は恐れています。12. あなたは、かつて言われました。『わたしは必ずあなたを幸せにし、あなたの子孫を、多くて数えきれない海の砂のようにする』と。」祈りましょう。

私たちはどれくらいの頻度で恐怖を感じるでしょうか。私が言っているのは本当の恐怖です。この約2年間に及ぶコロナ禍が本当に怖かったという人もいます。ある状況下で車に乗るたびに、本当に恐怖を感じるという人もいるでしょう。夫や妻の運転が怖いという方もいるかも知れません。癌の診断を受ける時、恐怖が生まれます。恐れを抱くことは私たちの生活において自然なことです。恐れは私たちの生活の中にあるごく自然な感情です。人が抱く恐れをただ無視することは、隣人を愛するという聖書的な対応ではありません。恐れはある意味、私たちを守るものです。死を恐れるゆえに、私たちは車が来ていないことを確認せずには道を渡りません。考えてみれば、私たちは病気になるのを恐れて痛んだ味や臭いのするものは食べないようにします。恐れは自然なことです。キリストに従う者として恐れにどう対処するかは人間の自然な反応ではありません。今日の箇所はヤコブの祈りから始めました。それは、兄エサウとこれから対面することについてヤコブが抱いていた真の恐れがこの祈りに感じられるからです。

ヤコブは家族全員と全ての家畜を連れて義理の父の家を出たことを思い出してください。大金持ちになった彼は、故郷に戻って、20年前に祝福をだまし取って以来会っていない兄と向きわかなくってはならないことを分かっていました。32章の始めに戻って、ヤコブが今体験している、この恐れをもたらしているものが何かを見ていきましょう。

1. さて、ヤコブが旅を続けていると、神の使いたちが彼に現れた。2. ヤコブは彼らを見たとき、「ここは神の陣営だ」と言って、その場所の名をマハナイムと呼んだ。3. ヤコブは、セイルの地、エドムの野にいる兄のエサウに、前もって使いを送った。4. ヤコブは彼らに命じた。「私の主人エサウにこう伝えなさい。『あなた様のしもべヤコブがこう申しております。私はラバンのもとに寄留し、今に至るまでとどまっていました。5. 私には牛、ろば、羊、それに男女の奴隷がおります。それで私の主人であるあなた様にお知らせして、ご好意を得ようと使いをお送りしました。』」6. 使者は、ヤコブのもとに帰って来て言った。「兄上エサウ様のもとに行き参りました。あの方も、あなたを迎えにやって来られます。四百人があの方と一緒にいます。」7. ヤコブは非常に恐れ、不安になった。それで彼は、一緒にいる人々や、羊や牛やらくだを二つの宿営に分けた。8. 「たとえエサウが一つの宿営にやって来て、それを打っても、もう一つの宿営は逃れられるだろう」と考えたのである。

ヤコブがここで何を恐れているのかが分かりました。ヤコブが和平を求め謙虚さを示すために使者を送ったのに対し、兄のエサウは400人も従えてヤコブに会うために向かっているのです。ヤコブの頭には、自分と家族全員を殺そうと向かってくる400人の戦士を思い描いたことでしょう。けれど、兄がいる故郷に向かうその前に、ある出来事が起こり、恐怖に対処するための最初の見識が示されます。この箇所から分かる恐れに対処するための第一の原則は、**神がおられることを知る**ということです。神の使い達がヤコブに現れたのは偶然ではありません。彼にとって、人生の危機ともいえる状況に向き合う前に、神が共におられることを確信することが必要でした。ここでは、神は御使いを遣わして、ご自身の存在を示されました。そこが自分がある場所が単なる宿营地ではなく、神がおられる場所だと認識したのだと思います。ですから、その場所をマハナイム、「2つの宿営」と名付けました。もちろんこのことは、これから彼が家族や一緒

にいる人々を守るために宿営を分けることを予見するものであります。御使いについて、聖書で描かれる姿と全く関係のない、様々なファンタジーの物語が存在します。ですが、御使いとは神様が様々な目的のために使われる、現実の天上の存在であることは明らかです。その主な目的は、人々にメッセージを伝える事ですが、神の民の守護者としての役割も果たします。詩篇 91:11 には「主があなたのために御使いたちに命じてあなたのすべての道であなたを守られる」とあります。その会話の詳細は分かりませんが、御使いたちが神の臨在と守りをヤコブに伝えたことは明らかです。恐怖の瞬間に直面するとき、どんな時にも神がすぐそばにいて下さることを思い出すため、神の存在に目を向けることが必要です。その恐怖が自分に危害を加えようとする人からのものであろうと、自分を圧倒するような状況からのものであろうと、私たちは神の臨在を確信することができます。神は私たちの心だけでなく、私たちに悪意を抱く人の心やその状況も全てご存知です。箴言 15:3 には「主の目はどこにもあり、悪人と善人を見張っている。」とあります。

この神のご性質を遍在と言います。神はどこであっても、いつもおられます。この宇宙のどこであっても、神がおられない状況に私たちが置かれることはありません。エレミヤ書 23:23-24 はこのことを思い起こさせてくれます。「わたしは近くにいれば、神なのか。——主のことば——遠くにいれば、神ではないのか。24. 人が隠れ場に身を隠したら、わたしはその人を見ることができないのか。——主のことば——天にも地にも、わたしは満ちているではないか。——主のことば。」これらの質問に対して「もちろん、神はすぐそばにおられます」と暗に示されています。神の目の届かない所に、私たちは行くことができないのです。神は天地をその存在で満たしておられるのです。恐れに捕らわれたときに、私たちはこのことに目を向けるべきです。神は私たちとともに全てのことを通って下さり、すぐ手を伸ばせば触れることができる誰かと同じように、私たちの近くにいて下さいます。

では、神が常に私たちと共におられることを知り、それを信じることは、私たちが無謀であったり、実際の備えよりも純粋に信仰に頼ることを意味するのでしょうか。いいえ、そうではありません。道路を渡るとき、神が共にいて下さることに信頼し、詩篇 91:11 に「主があなたのために御使いたちに命じてあなたのすべての道であなたを守られる」とある神の言葉も信じます。ですが、それでも道を渡る前に左右を確認します。神への信仰はありますが、コロナウイルスから自分と周囲の方を守るためにマスクを着用しますし、予防接種も受けました。ヤコブは神の臨在を約束されていましたが、恐れに正面から立ち向かうための強い基盤を持っていましたが、万が一攻撃されたとしても家族が生き残れるようにと現実的な対策も講じました。家族を2つの宿営に分け、一方の宿営が虐殺されたとしても、もう一方の宿営がなんとか逃げ延びて生き残れるようにしました。最初に攻撃を受けるグループを選ぶということは、人々を率いる者として容易ではありませんが、圧倒的な軍勢が襲ってくると思われる中、非常に現実的で賢明な判断でした。

そして、今日のメッセージの出発点に来るわけですが、恐れに対処する2つ目の原則は、祈りをもって恐れを神に委ねるということです。今までの人生で最も恐怖を感じたのは、ヘリコプターのように離陸し、飛行機のように飛行する V-22 オスプレイに乗って、イラクで飛行していた時です。礼拝を行うため、ある基地から別の基地へと移動の最中だったのですが、私たちの下で何かが発生し、突然搭乗機は地面に向かって急降下し始め、完全にフリーフォールのような状態になったかに感じました。やっと急降下が終わり、上空に再び戻ると、機体の後ろからは爆発の後が見えました。その後1時間以上の間、そのような上昇と下降を繰り返しました。軍用機の乗っていると何も聞こえないので、誰も何が起きているのか分かりませんでした。恐怖のあまり、自分が出来たことは、まさにヤコブのように「祈ること」だけでした。恐れは祈りの中で神の民を神に近づけてくれます。本当の恐怖は、未知の物、自分ではコントロールできないものから来ます。軍用機を操縦していたパイロットにとっては、恐怖心はそれほど大きくありませんでした。彼は何が起きているのをちゃんと理解していましたし、飛行機を完全にコントロールできていました。もしあの時、飛行中に起こっていたことをパイロットが説明してくれる方法があれば、

私の不安の多くは解消されただろうと思います。もちろん不安を完全にぬぐえなかったと思いますが、飛行機を操縦している人と話せて、きちんと状況をコントロールしていることが分かれば、大きな安心感を得られたことでしょう。

私たちにとって、全てをコントロールをして下さっているのは神様です。神がおられ、私たちを常に守って下さっているという前提があれば、恐れを抱かせるような状況について、神に語り、祈ることで、力と平安を頂くことが出来ます。ヤコブはここで、恐れに対処するための祈りのモデルを私たちに示してくれています。9節で、神が過去に自分や家族に何をして下さったのか、神が何を与えてくださり、どのように働いてくださったのかに、彼が目を向けることから始めているのに注目してください。9節には「私の父アブラハムの神、私の父イサクの神よ。私に『あなたの地、あなたの生まれた地に帰れ。わたしはあなたを幸せにする』と言われた主よ。」とあります。ただ過去に自分のために神が成してくださったことに注目するだけで、現在恐れている状況においても神の存在を見ることが出来ます。10節にある彼の祈りの後半では、神の愛と恵みに満ちた働きに対して、自分がそれを受けるにふさわしくないことを認め、謙虚さを示しています。ヤコブは「私は、あなたがこのしもべに与えてくださった、すべての恵みとまことを受けるに値しない者です。私は一本の杖しか持たないで、このヨルダン川を渡りましたが、今は、二つの宿営を持つまでになりました。」と祈っています。

神が応えて下さる祈りとは、へりくだった心から出る祈りです。イエスは宗教指導者のあるパリサイ人と、忌み嫌うべき罪人と見なされていた徴税人の話をします。ルカによる福音書 18:10-14 で、イエスは話します。「二人の人が祈るために宮に上って行った。一人はパリサイ人で、もう一人は取税人であった。11. パリサイ人は立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。12. 私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』13. 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』14. あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるのです。」私たちの救いは、自分が罪人であり、神の恵みを必要としていると認識することから始まります。私たちが自分には価値がないという感覚を失ってしまうと、神に頼るという祈りの真の目的を見失ってしまいます。ヤコブがこのことを学ぶのに長い時間がかかりましたが、このことをしっかりと肝に銘じました。そしてヤコブの直接的で正直な願いを見ます。彼は11節で「どうか、私の兄エサウの手から私を救い出してください。兄が来て、私を、また子どもたちとともにその母親たちまでも打ちはしないかと、私は恐れています。」と祈っています。自分の恐れを正直に認め、神に救いを求めています。これこそ私たちが祈るべき祈り方です。飾った言葉や長々とした祈りは必要ありません。問題を踏まえたうえでのシンプルな願い。私は恐れています。どうか恐れの原因から救ってください。

最後は神の約束に目を向けて祈りを終えています。12節は「あなたは、かつて言われました。『わたしは必ずあなたを幸せにし、あなたの子孫を、多くて数えきれない海の砂のようにする』と。」と祈っています。神は彼の子孫を砂のようにすると約束されたので、もし彼の家族が殺されてしまえば、神の約束が守られなくなってしまうこととなります。ですから、神の約束に基づいて彼は祈ったのです。聖書にはいくつの約束があるのでしょうか。何千もの約束があります。ハーバート・ロックリアという人が実際に数えたところ、聖書には7,147の約束があるそうです。既に神が常に私たちと共にいて下さるという約束のいくつかを見てきましたが、恐れの中で神に祈る言葉を探すとき、その祈りの基盤となるものが、他に何千もあるのです。そして神が共にいて下さることを知り、祈りを通して共におられる神に語りかけた後は、従順に行動することで恐れに対処することが出来ます。13-21節を読みましょう。

13. その夜をそこで過ごしてから、ヤコブは自分が手に入れたものの中から、兄エサウへの贈り物にするものを選び出した。14. 雌やぎ二百匹、雄やぎ二十匹、雌羊二百匹、雄羊二十匹、15. 乳らくだ三十頭とその子、雌牛四十頭、雄牛十頭、雌ろば二十頭、雄ろば十頭。16. 彼は、しもべたちの手にそれぞれ一群れずつを渡し、しもべたちに言った。「私の先を進め。群れと群れの間には距離をおけ。」17. また、先頭の者に命じた。「もし私の兄エサウがあなたに会い、『あなたは、だれに属する者か。どこへ行くのか。あなたの前のこれらのものは、だれのものか』と尋ねたら、18. 『これらは、あなた様のしもべヤコブのものでございます。ご主人のエサウ様に差し上げる贈り物でございます。ご覧ください。ヤコブもうしろにおります』と答えよ。」19. 彼は第二の者にも、第三の者にも、群れ群れについて行くすべての者に命じた。「あなたがたがエサウに出会ったら、これと同じことを告げよ。20. また、『ご覧ください。あなた様のしもべヤコブは、私どものうしろにおります』と言え。」ヤコブは、「自分の先に行く贈り物で彼をなだめ、その後で彼と顔を合わせよう。もしかすると、私を受け入れてくれるかもしれない」と思ったのである。21. こうして贈り物は彼より先に渡って行ったが、彼自身は、その夜、宿営にとどまっていた。

恐れに対して彼が最後にとった行動は従順な行動でした。ヤコブにとって神に従順であることは、これまでに自分が蓄えた富の中から償いをし、これまでの自分の行いから完全に悔い改めたことを示すことでした。たとえそれが、何も悪いことはしていないのに相手を怒らせてしまったことによる恐れでも、イエスが命じられた黄金律に則って接するべきです。マタイによる福音書7:12でイエスは「ですから、人からしてもらいたいことは何でも、あなたがたも同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」と言っています。これが私たちの恐れにどのように当てはまるのでしょうか。もちろんそれは、ヤコブがそうしたように、私たちもたとえ敵に対してであっても、そのような接し方をすることです。けれどそれは、恐れと戦いながらであっても、明らかに神の御心であると分かっていることに従い続けるということでもあります。私たちは正しい生き方を選び続けるのです。キリストの体と集い続けます。全て神の求めるものがイエスに集約されたように、私たちも神を愛し、人を愛し続けます。恐れによって動けなくなるのではなく、神に栄光をもたらす行いに向けて進むよう突き動かされるのです。なぜなら、恐れの原因があるとき、私たちは神が決して私たちから離れず、見捨てることがないと信頼できるからです。恐れを抱かせるどのような状況にあっても、神が近くにおいて下さり全てを支配しておられることを知っているのです。私たちは祈りをもって神に手を伸ばし、頼ることが出来るのだと確信することができます。これこそイエスを知る者たちが恐れに立ち向かう道です。私の祈りは、私たち皆がイエスが自分の主であり神であると宣言できること、そして人生において恐れに直面するとき、このような確信を持てるようになることです。祈りましょう。

Genesis 32:1-21 Fighting Fear

Let's begin this morning by reading Genesis 32:9-12. **9** And Jacob said, "O God of my father Abraham and God of my father Isaac, O Lord who said to me, 'Return to your country and to your kindred, that I may do you good,' **10** I am not worthy of the least of all the deeds of steadfast love and all the faithfulness that you have shown to your servant, for with only my staff I crossed this Jordan, and now I have become two camps. **11** Please deliver me from the hand of my brother, from the hand of Esau, for I fear him, that he may come and attack me, the mothers with the children. **12** But you said, 'I will surely do you good, and make your offspring as the sand of the sea, which cannot be numbered for multitude.'" Let's pray.

How often do we experience fear? I mean real fear. For some the last nearly 2 years of COVID has been a time of real fear. For some people, everytime they ride in a car in certain circumstances there is real fear on their part. For some, that fear comes when riding with their husband or wife driving! There is fear that comes in facing a diagnosis of cancer. Fear is a natural part of our lives. Fear is a reasonable part of our lives. To simply disregard someone's fear is never a Biblical response to loving our neighbors. Fear is something that keeps us safe to a certain extent. Fear of dying keeps me from crossing a street without ensuring that no cars are coming. If you think about it, fear of sickness keeps you from eating food that tastes or smells like it is spoiled. Fear is natural, but how we deal with it as followers of Christ is anything but a natural human response. In this passage, I started with Jacob's prayer, because you can sense from that prayer the genuine fear that he fears from the upcoming meeting with his brother Esau.

Remember that Jacob has left his father in law's house with his entire family and all his livestock. He has become very rich, and is now returning to his homeland, where he knows he will have to face his brother whom he has not seen since cheating him out of his blessing 20 years before this. Let's go back to the beginning of chapter 32 now and see what brings this fear that Jacob is experiencing now. **32** Jacob went on his way, and the angels of God met him.² And when Jacob saw them he said, "This is God's camp!" So he called the name of that place Mahanaim. And Jacob sent^[b] messengers before him to Esau his brother in the land of Seir, the country of Edom, ⁴ instructing them, "Thus you shall say to my lord Esau: Thus says your servant Jacob, 'I have sojourned with Laban and stayed until now. ⁵ I have oxen, donkeys, flocks, male servants, and female servants. I have sent to tell my lord, in order that I may find favor in your sight.'" // ⁶ And the messengers returned to Jacob, saying, "We came to your brother Esau, and he is coming to meet you, and there are four hundred men with him."⁷ Then Jacob was greatly afraid and distressed. He divided the people who were with him, and the flocks and herds and camels, into two camps,⁸ thinking, "If Esau comes to the one camp and attacks it, then the camp that is left will escape."

Now we can see what is making Jacob so fearful in this situation. His brother Esau is coming with 400 men to meet Jacob in response to his ambassadors reaching out with a message of peace and humility on the part of Jacob. I'm sure in Jacob's mind, these were 400 warriors ready to kill him and his entire family. But before this event unfolds on his way to his brother's home country, an event happens that shows us the first insight into dealing with fear. **The first principle we see in this passage related to dealing with fear is to know that God is present.** It was no accident that these angels

met Jacob. He needed to be reassured before facing this crisis in his life that God was present with him. In this case, God sent angels to reassure him of that presence. I say that because he recognized that where he was, was not just his camp, it was God's camp where he was. So, he named the place Mahanaim or "two camps." Of course, this also foreshadows how he will divide his family and people to protect them.

There are all sorts of fantasy stories about angels, that have nothing to do with how the Bible pictures them. But angels are clearly real heavenly beings that God uses for many different purposes. Their primary purpose is to deliver messages to people, but they also serve as guardians of God's people. [Psalm 91:11 says that God ... "will command his angels concerning you to guard you in all your ways."](#) We don't know any of the details of their conversation, but they were clearly conveying God's presence and protection to Jacob. Whenever we face a moment of fear, focusing on God's presence is necessary to remember that no matter what we face, God is right there with us. It doesn't matter whether that fear is from other people who intend us harm or circumstances that overwhelm us, we can be assured of God's presence. He knows not only what is in our hearts, but even knowing what is in the hearts of the people and circumstances around us that intend evil against us. [Proverbs 15:3 says, "The eyes of the Lord are in every place, keeping watch on the evil and the good."](#)

We call this aspect of God's character, omnipresence. He is present everywhere, at all times. There is nowhere in this universe, there is no circumstance you can find yourself in where God is not already present. [Jeremiah 23:23-24 reminds us of this when God says, "Am I a God at hand, declares the Lord, and not a God far away? 24 Can a man hide himself in secret places so that I cannot see him? declares the Lord. Do I not fill heaven and earth? declares the Lord.](#) The implied answer to those questions is Yes, he is a God at hand – right beside us! No, you cannot go anywhere that God does not see us! And Yes, he does fill Heaven and Earth with his presence! This should be our focus when fear attacks. God is going through everything with us and is as close to us as another human that we can reach out and touch.

Now, does knowing and believing that God is constantly present with us mean that we are reckless or rest purely on faith rather than practical preparations? No, it doesn't. I trust that God is with me when I cross a road, and I believe God's Word that we read in [Psalm 91:11, For he will command his angels concerning you to guard you in all your ways.](#) But I still look both ways before crossing a street. I have faith in God, but I still wear a mask to protect others and myself from COVID, and got vaccinated. Jacob had this promise of God's presence that set a strong foundation for him to face this fear head on, but he still took practical precautions to ensure that his family survived an attack should it come. He divided the family into two camps so that if one group was massacred, the other group would hopefully escape and survive. While this was not an easy task of leadership, to choose those who would be facing any attack first, it was a very practical and wise decision when facing what seemed at that moment to be an overwhelming army coming to attack them.

Then we come to where we started this message. **We see the second principle for dealing with fear which is to take it to God in prayer.** The most fear I have ever experienced in my life came in Iraq during a flight on a V-22 Osprey that takes off like a helicopter then transitions to fly like an airplane. I was flying from one base to another to

conduct worship services, when something exploded underneath us and all of a sudden we dove straight down to the ground and it felt like we were in a complete freefall. Finally we came out of the dive and went straight back up in the air and I could see the site of an explosion out of the back of the aircraft. We continued going up and down, back and forth like this for more than an hour. Of course, none of us knew what is going on, because you can't hear anything as a passenger in a military aircraft. At that point of fear, the only thing I found myself doing was exactly what Jacob was doing – praying. Fear should push the people of God closer to God in prayer. Real fear comes from the unknown, from things out of your control. For the pilot of the aircraft I was on, his fear was not very high. He knew exactly what was happening and was in full control of the plane. If there was a way that I could have had the pilot talking me through what was happening during that flight, then it would have relieved a lot of my anxiety. Believe me, I still would have been anxious, but talking to the one flying the plane and knowing his control of the situation would have been a tremendous comfort.

For us, God is the one in control. If we start with the foundation that he is present and active in providing for us and our protection, then there is strength and peace to be found in talking to him, praying to him about our situation that is causing us fear. And, Jacob here gives us a model of a prayer to address our fear. Notice he begins in verse 9 with focusing on what God has done for him and his family in the past – things that he can grab hold of and know that God was at work. Verse 9 says, **“O God of my father Abraham and God of my father Isaac, O Lord who said to me, ‘Return to your country and to your kindred, that I may do you good...’”** Simply focusing on God's actions on our behalf in the past can help us to see God's presence in the present fearful circumstances. The second part of his prayer in verse 10 demonstrates humility and recognition of his unworthiness of God's loving and gracious acts towards him. He prays, **10 I am not worthy of the least of all the deeds of steadfast love and all the faithfulness that you have shown to your servant, for with only my staff I crossed this Jordan, and now I have become two camps.**

Prayer that God responds to is prayer that comes from a heart of humility. Jesus tells the story of a Pharisee, a religious leader, and a tax collector, regarded as a hateful sinner. In **Luke 18:10-14** Jesus says, **10 “Two men went up into the temple to pray, one a Pharisee and the other a tax collector. 11 The Pharisee, standing by himself, prayed thus: ‘God, I thank you that I am not like other men, extortioners, unjust, adulterers, or even like this tax collector. 12 I fast twice a week; I give tithes of all that I get.’ 13 But the tax collector, standing far off, would not even lift up his eyes to heaven, but beat his breast, saying, ‘God, be merciful to me, a sinner!’ 14 I tell you, this man went down to his house justified, rather than the other.** Our salvation begins with recognizing our state as a sinner and need for God's grace. If we ever lose that sense of our unworthiness, then we lose our understanding of the real purpose for prayer – to show our dependence on God. It has taken a long time for Jacob to learn this lesson, but he has learned it well. Then we see Jacob's request that is direct and honest. He says in verse 11, **11 Please deliver me from the hand of my brother, from the hand of Esau, for I fear him, that he may come and attack me, the mothers with the children.** He freely acknowledges his fear and asks for God to deliver him. This is exactly how we should pray. It doesn't require flowery language or long prayers. A simple request based on the problem. I fear, please deliver me from the cause of my fear.

He ends the prayer by focusing on God's promise. Verse 12 says, **But you said, 'I will surely do you good, and make your offspring as the sand of the sea, which cannot be numbered for multitude.'**" God had promised that his offspring would be like sand, so if his family is killed that would basically make God's promise not come true. So, he bases his prayer on the promise he has from God. How many promises are in the Bible? The answer is thousands! One man, Herbert Locklear actually counted 7,147 promises in the Bible. We've already read some of those promises about God's constant presence with us, but there are thousands more that we can base our prayers on in order to find words to voice our prayers to God in time of fear. **Finally, after knowing God's presence and speaking to our ever present God through prayer, we can deal with our fear by Acting in Obedience.** Let's finish up the passage reading verses 13-21. **¹³So he stayed there that night, and from what he had with him he took a present for his brother Esau, ¹⁴two hundred female goats and twenty male goats, two hundred ewes and twenty rams, ¹⁵thirty milking camels and their calves, forty cows and ten bulls, twenty female donkeys and ten male donkeys. ¹⁶These he handed over to his servants, every drove by itself, and said to his servants, "Pass on ahead of me and put a space between drove and drove." // ¹⁷He instructed the first, "When Esau my brother meets you and asks you, 'To whom do you belong? Where are you going? And whose are these ahead of you?' ¹⁸then you shall say, 'They belong to your servant Jacob. They are a present sent to my lord Esau. And moreover, he is behind us.'" // ¹⁹He likewise instructed the second and the third and all who followed the droves, "You shall say the same thing to Esau when you find him, ²⁰and you shall say, 'Moreover, your servant Jacob is behind us.'" For he thought, "I may appease him with the present that goes ahead of me, and afterward I shall see his face. Perhaps he will accept me."²¹ So the present passed on ahead of him, and he himself stayed that night in the camp.**

I call this final action he took in response to his fear, acting in obedience. For Jacob, obedience to God was showing full repentance for his past actions by seeking to make restitution out of what riches he had accumulated. Even if it is fear of someone we have done nothing wrong to offend, we should treat them according to the Golden Rule as commanded by Jesus. In **Matthew 7:12 Jesus says, "So whatever you wish that others would do to you, do also to them, for this is the Law and the Prophets."** How does this apply to our fear? Of course it means that we treat others, even our enemies in this way that Jacob has demonstrated. But, it also means that even while dealing with fear, we continue to obey what we know is clearly God's will. We continue to choose to live righteous lives. We continue to meet with the body of Christ. We continue to love God and love others as Jesus summarized all God's requirements. We don't let fear paralyze us, but motivate us to move forward in actions which will bring glory to God. Because when there is a real cause for fear, we can trust that this same God will never leave us or forsake us. And we can be assured that we can reach out and touch him with our prayers, knowing that he is near and is in control no matter where those fear inducing circumstances take us. This is how those who know Jesus face fear. My prayer is that all of us would be able to say that Jesus is my Lord and God, and experience this same confidence in facing the fears of this life. Let's pray.